

銀の道商工会 平成 29 年度 経営発達支援事業実績

《自己評価》 A：大変効果があった B：まあまあ効果があった C：あまり効果がなかった D：まったく効果がなかった

経営発達支援事業		評価
<p>1. 地域経済動向の調査</p> <p>①景況調査の実施 目標 15 事業所 ⇒ 実績 35 事業所 景況調査先 7 事業所 (年 4 回) + 別途 28 事業所 (年 2 回) を選定し実施。</p> <p>②観光入込調査の実施及び市観光動態調査のデータの分析 温泉津温泉の宿泊者に対してアンケート調査を実施するとともに、管内の主要観光施設の入り込み状況や温泉津温泉の受け入れ体制改善のための参考資料として、それぞれ集計分析し広報紙にて会員事業所へ情報提供した。 調査先の景況や観光客入り込み状況を把握し県内・管内の動向を事業所に周知するとともに、指導・助言を行い事業計画策定・実施につなげた。</p>		A
<p>2. 経営状況の分析</p> <p>・経営分析セミナーの開催 目標 1 回 ⇒ 開催実績なし ・経営状況の分析支援 目標 24 事業所 ⇒ 実績 20 事業所 専門家に同行して目標件数の経営状況の分析を行い、実現可能で事業所の持続的発展が見込める事業計画策定につなげた。</p>		B
<p>3. 事業計画策定支援</p> <p>・事業計画策定セミナーの開催 目標 1 回 ⇒ 開催実績なし ・事業計画策定支援 目標 24 事業所 ⇒ 実績 20 事業所 経営状況の分析をした事業所を対象に事業計画策定を支援。⇒ 定量目標の達成には至らなかったが、前年のマンパワー不足の反省をもとに、専門家を活用して実現可能性の高い計画策定につなげた。 中には実現可能性の低い計画策定に終わった先もあり、より実現可能性の高い計画策定の必要性がある。(次年度以降の課題)</p>		B
<p>4. 事業計画実施支援</p> <p>・事業計画実施支援 目標 24 事業所 ⇒ 実績 26 事業所 事業計画策定先に対する実施支援を行い、定量目標はクリアしたものの十分な支援とは言えなかった。 次年度は、専門家と連携して前年度までに事業計画を策定した事業所を優先的に計画の検証を行い、事業継続の観点での成果をあげたい。</p>		B
<p>5. 需要動向調査</p> <p>日経MJの抜粋資料を収集し、毎月 1 回 60 事業所に対し巡回・FAXで情報提供を行ったが、事業所にとって有意義な情報であったかは疑問があり、情報内容の絞り込みや見直しを行い事業計画策定支援に取り組みたい。</p>		A
<p>6. 新需要開拓</p> <p>①観光需要の開拓 石見神楽定期公演・寺子屋現代版ツアー・健康ウォークなど部分的には計画どおり実施支援できたが、街道エリア全体での観光情報発信について、計画どおりに進まなかったことは次年度以降の課題。</p> <p>②地場製造業に対する販路開拓支援 練り製品製造業・食品加工業の展示会への出展支援(計画 3 事業所⇒実績 4 事業所)については、一定の評価を得て定番として取引が始まった案件もあり今後に期待が持てる。 新たな商品づくりについては、食品製造業者個々での取り組みを支援した結果、「くるみ松風トリフ入り」「スイーツ系だし巻」「お魚ハンバーガー」「オロチ焼き」などが商品化につながり、次年度以降はこれらの商品が流通に乗るよう支援して行く。</p> <p>③宿泊システムの構築 伴走型補助金の活用により、旅館の空室状況などの情報発信と宿泊客の予約問い合わせサービスの充実を図った。</p>		B
地域経済の活性化		
<p>1. 温泉津まちづくり協議会との連携 協議会事務局との情報交換により、観光振興等について連携を図った。</p> <p>2. 既存イベントの支援 地域活性化の観点で、産業祭の開催、温泉津温泉夏祭り・仁摩ごいせ祭り・温泉津駅前賑わい事業の開催を全面的に支援した。 また、仁万駅 100 周年記念事業やゆのつりレーマラソンなど新たな取り組みも増えた。</p> <p>3. 道の駅整備に向けた検討 道の駅整備計画について、道の駅推進室より進捗状況について説明を聞き意見交換を行った。参画の可能性のある事業者と行政・運営団体との情報交換や、道の駅整備に伴い影響を受ける可能性のある既存の事業者との共存のため調整や支援がポイントとなる。</p>		B
支援能力向上の取り組み		
<p>1. 支援機関連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換 研修やブロックの定期的な連絡会議で、タイムリーな情報交換や資質の向上を図っているが、職員間の情報共有の点では充分とは言えなかった。</p>		A
<p>2. 経営指導員等の支援能力向上 研修会への参加による職員資質向上を図り、加えて個々でのスキルアップに取り組んだが、そのノウハウを他の職員の能力アップにまではつなげられなかった。</p>		B
<p>3. 事業評価と見直し 3カ月に一度の職員会議で取り組み状況の検証・見直しを行った。また、年度末には経営発達支援委員会を開催し事業報告を行った。</p>		B